ポルトガルのスティルワイン、2026年上半期の調査対象チャネルで販売量4.37%減

売上高は0.48%増の€584.67 million。1リットル当たり平均売上高の5.07%上昇が押し上げ

2026年11月12日（木）



ポルトガルでは2026年上半期、スティルワインの販売量が減少した一方、1リットル当たり平均売上高の上昇により、販売額はわずかに増加した。同国のワイン研究機関が公表した最新の市場データで明らかになった。

1～6月に調査対象となった流通チャネルと飲食店チャネルで販売された認証付き・非認証のスティルワインは、111.51 million litersだった。2025年同期の116.61 million litersから5.10 million liters、率にして4.37%減少した。

同期間の販売額は€581.90 millionから€584.67 millionへとわずかに増加し、増加額は€2.78

million、伸び率は0.48%となった。1リットル当たり平均売上高は€4.990から€5.243へ上昇し、5.07%増だった。

数値は、ポルトガルのInstituto da Vinha e do Vinho（IVV）がNielsenのデータを基に発表した機関統計資料「Vendas no Mercado Nacional – Junho 2026」によるもの。ファイルの公式記録の日付は11月11日（水）となっている。この資料が対象とするのは調査対象チャネルでの販売であり、国内のワイン消費総量を示すものではない。

データによると、飲食店などのフードサービスチャネルでは、流通チャネルよりも大幅な落ち込みが見られた。飲食店チャネルの販売量は2026年上半期、前年同期比で8.75%減少した。それでも販売額は1.04%増加し、1リットル当たり平均売上高は10.72%上昇した。

流通チャネルの落ち込みは比較的小さく、販売量は2025年1～6月期比で1.48%減、販売額は0.63%減だった。

この2つのチャネルの内訳を見ると、販売リットル数が減少したにもかかわらず、市場全体の売上高がほぼ横ばいだった理由が分かる。合算データが示すのは、幅広い需要回復ではなく、販売量の減少と1リットル当たり売上高の上昇であり、とりわけフードサービスでその傾向が顕著だ。

IVVの資料は、2026年上半期と2025年の同じ6カ月間を比較している。前月比の比較でも、直前の半年間との比較でもない。計算には、原資料にある2025年1～6月と2026年1～6月の各列が使用された。

同研究機関は、流通チャネルの対象範囲に重要な変更があることも指摘している。2025年1月以降、流通データにはGrupo Jerónimo Martinsの販売が含まれていない。そのため、結果が反映するのは現行データセットの対象チャネルであり、ポルトガルの小売市場全体ではない。

1リットル当たり平均売上高の解釈にも注意が必要だ。この指標には価格、商品構成、チャネル構成の変化が反映されるため、インフレだけを測るものではない。数値の上昇は、消費者が異なるワインを購入したことや、小売と飲食店の販売構成が変わったことによる可能性もあり、店頭価格やメニュー価格の上昇だけを示すわけではない。

こうした限界はあるものの、上半期の数値はポルトガルのスティルワイン市場の明確な傾向を示している。IVVが調査するチャネルでは、家庭や飲食店の顧客が購入した量は減少した一方、生産者や販売業者は、1リットル当たりの平均売上高を高めることで、売上高をおおむね維持した。